



営農NEWS



水稻の育苗管理について

3月に入って、ぽかぽか陽気の日もあり、急に春らしくなってきました。水戸における桜の開花予想も、平年並～やや早い（昨年よりはやや遅い）3月末で、4月上旬には満開を迎えるとのことです。これからも寒暖の日を経過するものの、日に日に田植えの春となっていきます。このため、もうすぐ、水稻の種まきや育苗を始める時期となります。

水稻の育苗を始めるにあたって、種子や培土、育苗箱など播種までの準備については、「営農NEWS 第2517号（平成29年3月1日発行）の「水稻育苗の準備にあたって注意すること」を参照して行ってください。

ここでは、播種から育苗中における苗管理の注意点について紹介します。

1 播種

播種は、田植えの予定日より逆算して、コシヒカリで約20日前を目安に始めましょう

播種量は、育苗一箱あたり催芽籾で170～200g（乾籾で140～160g）とし、均一に薄く蒔きましょう
播種後の覆土前に十分な灌水を行い、覆土後に灌水は行ないません

2 出芽

出芽の管理は

積重ね法では 温度 28～30℃で2～3日間

平置育苗法では 昼間 30℃以下、夜間 15℃以上で4～6日間とします

なお、平置育苗法は根上がりを防ぐため覆土をやや厚めにし、保温性に優れた被覆資材（太陽シートなど）をべたがけします

注1 30℃以上の高温で、もみ枯細菌病などが発生しやすくなるので、温度管理は特に注意しましょう。

注2 温度不足で出芽に長時間かかり過ぎると、苗立枯病が発生しやすいので注意しましょう。

3 緑化

白い芽が出揃ったら被覆資材を除き、2～3日間かけて徐々に光にあてましょう

苗は急激な温度変化に弱いため、昼間 20～25℃、夜間 15～20℃とします

緑化直後に晴天の場合は、遮光資材などで一時的に遮光を行いながら慣らしさせていきましょう

注1 緑化初期に強い光にあてたり、暗所日数が長すぎて苗が伸びすぎると白化しやすいので注意しましょう。

注2 温度計はなるべく苗の近くに設置してこまめに検温し、管理するようにしましょう。

4 硬化

本葉1枚くらいになったら、その後は昼間 20～25℃、夜間 10～15℃で10～14日間を目安に適切な管理をします

かん水は午前中に行い、日中の高温時や夕方には避けて、夕方にはやや乾く程度のかん水量にします

注1 2葉期頃から移植期にかけて、低温が続いた後に急に高温になるとムレ苗が発生しやすいので、低温時には土壌をやや乾燥気味にして保温に努めてください。

注2 水のかけ過ぎや換気不足などは、徒長や発根不足の原因となりますので注意しましょう。

注3 育苗ハウス内の最低温度が10℃以下になると、ピシウム菌などによる苗立枯病が発生しやすくなるので、夜温の低下に注意してください。

注4 高温多湿になると、リゾープス菌などによる苗立枯病が発生しやすいので注意しましょう。

5 田植え前

田植え前になったら、苗を外気に十分慣らしましょう。

草丈13cm前後で、葉数2.2～2.5葉の生育が揃い、根張りのよい、がっちりした苗に育てましょう

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040